

「研修会等名称」

平成 23 年度 FD 推進ワークショップ（新任専任教員向け）
～大学教員の職能開発と FD～

場所：グランドホテル浜松

期間：平成 23 年 8 月 8 日～9 日

1. 研修の内容

1 日目

【全体説明】

まずはじめに、運営委員長の圓月勝博氏から、日本私立大学連盟(私大連)とは何かということについての説明が行われ、1951 年に 24 私立大学によって設立された団体であることや、同連盟教育研究委員会のもとに FD 推進ワークショップ運営委員会が設置されているという説明が行われた。

また次に、大学教員の職能開発と FD についての説明が行われ、職能開発(=Professional Development)には①管理運営、②研究、③教育、④社会貢献、の 4 つの要素があり、これら 4 つの職能のバランスは、大学の理念・教育目標あるいは教員の雇用形態・職階・年齢等によって変動するということや、FD(=Faculty development)には、マクロレベルにおいて「大学の理念と教育目標」、ミドルレベルにおいて「三つの方針」、ミクロレベルにおいて「担当科目」という構成要素があるという点についての説明が行われた。

そして、本ワークショップの目的および内容(日程)についての説明が行われた。

【パネル・ディスカッション】

昨年度のワークショップの参加者(3 名)から、その感想や各大学における FD の取り組みについての報告が行われた。

【グループ討議】

7 グループに分かれ(1 グループ 7 名+コメンテーター1 名)、各自の専門分野や教育上解決したい問題や課題についての報告が行われた。そして、2 日目の模擬授業に備えてのアイスブレイクを行いつつ、参加者全員で課題を共有し、2 日目の模擬授業の発表順を決定した。

模擬講義においては、建設的な態度で解決手段や改善方法をともに考えていくということや、発言はできるだけ簡潔に行うべきことについての確認も行われた。

【授業案作成】

2 日目の模擬授業で使用する、授業案の作成を各自で行った。到達目標については、「学生が～できるようになる」というように、学生を主語にして書くこととし、「導入」「展開」「まとめ」の三段階にわけて授業の流れを明示し、時間配分を決めた。また、各段階ごとに「教員の活動」、「学生の活動」「留意点」の記載を行った。

2 日目

【模擬授業】

各グループに分かれ、1 日目に作成した「授業案」にしたがって、模擬授業が行われた。授業案が適切であるか、授業案にしたがって模擬授業が行われているかについて検討され、講義終了後には、良かった点の指摘や課題について、グループ全員で討議を行った。

【全体ふりかえり・閉会】

各グループの代表者が、グループワークでの成果についての報告を行った。

2. 研修の成果

本ワークショップに参加し、普段は交流する機会の少ない、異分野の先生方との交流・意見交換を行うことができた。また、模擬授業や討論をつうじ、講義に対する姿勢について、改めて考えさせられた。

とくに、今回のワークショップにおいては、模擬講義を「行う」だけでなく、「聴く」立場でもあったため、聴き手としての貴重な体験を行うことができた。たとえば、分かりやすく話すことの重要性や、それを支える話術やパフォーマンス力、そして知識を与えるだけでなく興味を沸かせるようにするにはどうしたらよいかといった点についても、様々な講義を「聴く」ことをつうじて、ヒントを得ることができた。

また、今回の模擬講義は、ホワイトボードと授業案のみという、教育機材のない環境で行われた。こうした環境では、必然的に対面的コミュニケーションに集中することとなるのであるが、結果として言葉と文字のみによる授業の原点に立ち戻ることができたと思う。そして、板書の重要性についても再確認した。

3. 授業への研修成果の反映状況

次のような点を今後の授業に反映していきたいと考える。

それは、学生を意識した授業を行うということである。

これは、決して「学生に媚びる授業」を指すものではない。あくまで、学生の視点にたち、学生の理解を助ける工夫を行うということである。身近な事例の例示を行うことや、話すスピード、板書や補助教材の工夫などを行い、学生が真に「わかった」と思えるような授業を目指していきたいと考えている。

学部長	FD委員長	FD委員会	企画・広報課長	係